

■ 肢体不自由特別支援学校の「作業学習」の充実

□ どうすれば「できる」ようになるか（3つの工夫）

- 
- 1 一人一人の障害の状況(作業能力)に応じた工程の工夫
 - 2 「やりにくい」状態を解消(改善)する補助具の開発
 - 3 集中力を高める教室(作業室)環境整備の工夫

「できた！」につなげる

◆ 授業改善につながる共通する課題

★ 達成感をもたせるために

- 生徒の得意な力を発揮できるようにする。
- 作業の目的を明確にし、品質を向上させる。
- 作業見本や工程表を手元に置くことで、作業を分かりやすくする。
- 作業のやりやすさや、補助具の改善などに、生徒本人の意見を取り入れる。
- 作業日誌を工夫し、自分で振り返ることができるようにする。



★ 仕事としての意識をもたせるために

- 報告、連絡、相談を意識する。
- 社会に出たときを意識して、用語は適切に使う。
- 名前や愛称で呼ばず、苗字（〇〇さん）で呼ぶ。
- 生徒が手を挙げるだけで先生を呼ぶのではなく、「〇〇先生質問があります」など、定型化する。
- 無理なく作業に取り組むことができるよう、作業台の高さや、姿勢等を常に見直す。



★ 社会性を身に付けるには、作業学習だけでなく、様々な学習場面で実践することが大切

⇒ 生徒が一人でできることを増やす ⇒ 自信・意欲を育てる

◆ 授業づくりのポイント

生徒がやりにくそうにしていなか、丁寧に把握しましょう



★ できないことを頑張らせるのではなく、生徒が「今できること」を大切にしましょう。

★ 生徒が分かりやすい目標の設定と、成果が確認できるようにしましょう。

★ 教師の働き掛けを最小限にして、生徒の自発的な動きや気づきを引き出しましょう。

★ 作業学習だけでなく、他の学習と関連付けを図りましょう。

★ 椅子や作業台の高さや位置を常に見直し、身体を支える場所を作りましょう。

★ 姿勢や上肢の動かし方など、自立活動(作業療法の視点)との関連付けを図りましょう。



将来の自立と社会参加をめざす。

報告書を活用した研修の提案

見直そう、作業学習の学習環境

子供が「ひとりでできる」ために、改善すべきは「What?」「Where?」「How?」

ねらいと概要

- ・生徒の能力を最大限に引き出す安全な学習環境の工夫
 - ・学部間や作業班間で統一性のある指導を行うための共通理解の形成
- ①生徒の目線、状況で考える。
 - ②児童・生徒の学習の様子を詳細に把握・分析する。
 - ③キャリア教育の視点を踏まえた作業学習の充実を図る。

準備等

- ・本報告書
 - ・特別支援学校学習指導要領
 - ・キャリア教育全体計画
- ・研修会の実施単位は、学部別、作業班別

研修プログラム

step

1

「3つのポイント」に基づいて現状を整理する。

- 日頃の授業記録やVTR等をもとに、生徒がやりにくそうにしている箇所はないか把握する。
- 「やりにくそうにしている箇所」がある場合には、「3つのポイント」を踏まえて、原因・背景を分析する。

step

2

解決に向けた改善課題を設定する。

- すぐに実行できること、また計画的に改善すること等を「3つのポイント」別にマトリックスシート等に整理し、具体的な改善策(いつまでに、誰が、何を、どのように等)を立案する。

	作業内容	作業工程	補助具	学習環境
すぐに改善	○	○	○	○
計画的に改善	○	○	○	○

step

3

みんなでアイデアを出し合い、授業改善につなげる。

- 作成したワークシートを基に、改善策を発表する。
- 発表された改善策は、各教員が自らの授業を改善する際の参考とする。
- すぐに改善できることを確認し、具体的な行動に移す。

- ◆ 授業改善は、授業担当者や作業班任せにするのではなく、教員一人一人の得意分野や専門性を存分に活用し、協力し合いながら進めることが大切です。
- ◆ できることから直ちに行動に移すことが大切です。